



**さっぽろ
こども環境
コンテスト
2025**



実施報告書



実施概要

事業名称
開催日
会場
主催
審査員

さっぽろこども環境コンテスト2025
2025年12月6日(土) 13:00~16:30
 札幌エルプラザ公共4施設3階ホール
 札幌市環境局
 審査員長 北海道大学
 文学研究院 教授
 大沼 進 様
 審査員 NPO法人北海道エコビレッジ
 推進プロジェクト理事長
 坂本 純科 様
 審査員 市立札幌藻岩高等学校 学校長
 野口 浩史 様
 審査員 札幌市小中学校環境教育研究会
 事務局長
 高橋 浩史 様
 審査員 株式会社アドバコム 代表取締役
 白井 純信 様

参加人数

約210人



プログラム 3F ホール

13:00 開会 主催者挨拶
 13:09 小学校の部 発表
 14:04 学校外団体の部 発表
 14:50 中学校の部 発表
 15:17 特別発表 一般社団法人SWITCH
 15:35 ステージイベント
 ジャグラー・コーヘイ 氏
 環境クイズとジャグリングパフォーマンス
 16:05 表彰 最優秀賞・優秀賞・クリック募金特別賞
 16:30 閉会

同時開催事業 3F ホワイエ

「発表団体活動コーナー」
 発表団体の取組紹介
 札幌市の取組紹介

さっぽろ
こども環境
コンテスト
2025

事業広報



発表者募集チラシ

配布先/市内小中学校・児童会館・区役所など
サイズ/A4(W210mm×H297mm)



発表者募集ポスター

配布先/市内小中学校・児童会館・区役所など
サイズ/A2(W420mm×H594mm)



見学者募集ポスター

配布先/市内小中学校・児童会館・区役所など
サイズ/A2(W420mm×H594mm)



見学者募集チラシ

配布先/市内小中学校・児童会館・区役所など
サイズ/A4(W210mm×H297mm)



運営に当たり

「さっぽろ子ども環境コンテスト2025」では、「エコチル特別賞」「クリック募金特別賞」を設けました。また、一般財団法人 札幌市環境事業公社様から、参加賞のご協賛をいただきました。

【新設】エコチル特別賞について

「さっぽろ子ども環境コンテスト2025」では、子ども環境情報紙「エコチル(発行:株式会社アドバコム)」による特別賞が加わりました。

これは、2025年7月に札幌市環境局、札幌市小中学校環境教育研究会、株式会社アドバコムの三者が締結した「環境教育等の推進に関する連携協定」の一環として設けたものです。

〈クリック募金特別賞について〉

クリック募金特別賞は、札幌市の「環境教育へのクリック募金」制度参加企業のご寄附により設けているものです。クリック募金の制度については、こちらをご覧ください。 <https://www.kankyo.sl-plaza.jp/bokin/>

協力企業(令和8年2月現在):株式会社公清企業/札幌第一清掃株式会社/株式会社東部清掃/北清商事株式会社 北海道ガス株式会社/北海道ペットボトルリサイクル株式会社/株式会社マテック札幌支店(50音順・敬称略)

発表団体紹介

「さっぽろ こども環境コンテスト2025」では、小学校の部4団体、
学校外団体の部4団体、中学校の部3団体、特別発表1団体、計12団体による発表を行いました。
たくさんの観客、そして審査員の前で堂々と自分たちの環境への取組について発表しました。

小学校の部



札幌市立北光小学校



札幌市立駒岡小学校



札幌市立小野幌小学校
環境委員会



田中学園
立命館慶祥小学校

学校外団体の部



旭山自然調査隊



定山溪児童会館



さっぽろあそエコ団



五天山自然観察クラブ

中学校の部



札幌市立義務教育学校
定山溪学園



札幌市立西野中学校
特別支援学級



札幌市立米里中学校
科学部

特別発表



一般社団法人SWITCH

発表団体の取組を紹介した「環境活動ノート」は、
ホームページで見ることができます。

札幌市の環境教育ホームページ(さっぽろこども環境コンテストのページ)

https://www.city.sapporo.jp/kankyo/kankyo_kyoiku/contest/2025/index.html

小学校の部

札幌市立北光小学校

「フードロス減らそうプロジェクト」

修学旅行の学びから、「地球環境を守るために自分たちに出来ること」を考え、国語の「構成を考えて、提案する文章を書こう」という学習を行いました。子どもたちが伝えたいテーマごとにグループを編成し、校内の他学年に向けてエコ活動を進める提案をしました。提案は文章を校内に掲示するとともに、分担をして各クラスに提案を伝えに行きました。また、SWITCHの佐座慎苗さんと札幌バイオフードリサイクルさんを講師にお招きして出前授業を行い、フードロスに対する意識や専門性を高めました。

そして強化週間を設け、全校でフードロスを減らす活動を行いました。事前アンケートの声をもとに、1週目は給食の準備時間を計測し、早く準備をすることで食べる時間をより確保する活動をいたしました。2週目は、各クラスの残量を調べ、みんなで協力する意識を高める活動を行いました。

実施後には、ランキング形式で表彰を行い、1位のクラスに準備時間や残量を減らすための工夫についてインタビューを行い、全校に放送しました。この期間は給食の実残量も全校平均で5~7%減っていたので、活動価値を実感することができました。

全校児童のフードロス削減の意識を高めるために、子どもたち発信で全校児童が参加する「フードロス減らそうフェスティバル」を開催しました。全部で11のグループに分かれて、「楽しみながら学ぶ」をテーマに、様々な体験活動を行いました。クイズスタンプラリーや食品ロス・ゼロ川柳の募集、スクラッチで作成したゲームやカフートのクイズなどのChromebookを活用した活動、フードロス削減の意識を高めるためのオリジナルゲーム作りなど、自分たちの強みやアイデアを生かして、下級生たちの意識を変えることができました。



小学校の部

札幌市立駒岡小学校

豊かな自然の中で行う環境学習の取り組み

駒岡小学校の紹介と学校林の活用

札幌市南区にある駒岡小学校は、校舎正面に精進川が流れ、裏手には学校林が広がる自然豊かな学校です。

4月~10月には2週に1回ほど「こまおかタイム」があり、全校児童が一周約600mの林間コースを走ります。高低差やでこぼこ道があるコースは体力づくりにぴったりで、子どもたちは目標を掲げ、季節の変化を全身で感じながら駆け抜けています。

また、6月の「ツリークライミング」ではロープを操って木に登り、「ぶら下がってもびくともしない。木ってこんなに丈夫なんだね。」「上から見下ろしてみても、改めて木って高くまで生えているって気が付いた。」と、楽しみながら木への理解を深めています。

学校林の木を生かす活動(薪割り、図工等)

駒岡っ子は薪を割ります。毎年、学校林で剪定されて出来た丸太を細かく割って薪にします。捨てるのではなく、自分たちの生活に活かすサステナブルな取組です。休み時間になると、高学年を中心に薪割りをします。節があったり、木の種類によっては硬かったりしますが、子どもたちは慣れた手つきで割っていきます。他にも、学校林で集めた枝や端材を使って工作するなど、駒岡っ子にとって木はとても身近な存在です。

これからの学校林との付き合い方(未来編)

地域に住む林業に携わる方や樹木医さんなど、様々なゲストティーチャーから木について学ぶ機会があります。木は昔から人間の生活になくてはならないものであり、守り、育て、活用していかねばならないのです。木に親しみ、木を守り、木を活かしてきた駒岡っ子。これからはどのように木と付き合い合っていくべきか、昔から伝わる知恵を受け継ぎながら、今の時代に合った新しい工夫やアイデアについて今を生きる駒岡っ子たちが考えていきます。



小学校の部

札幌市立小野幌小学校

小野幌小学校 環境委員会腐葉土作り

私たちの通う小野幌小学校には、広さ約2000平方メートルの自然林「学習公園」があります。中央には湧き水による池があり、野幌原始林を彷彿とさせるミズナラやヤマグワ、ホウノキなどの多様な広葉樹が育つ豊かな森です。ここにはエゾリスやアカゲラなどの野生動物も住んでおり、私たちの自然学習の場として大切に活用されてきました。毎年、落葉の季節になると、たくさんの落ち葉が道やグラウンドを覆うため、全校児童で落ち葉拾いを行ってきました。

これまでは、この大量の落ち葉を「燃やせるごみ」として処分してきましたが、せっかくの自然の恵みを捨てるのはもったいないと考え、2024年度から落ち葉による「腐葉土作り」を試行いたしました。作成場所には、使われなくなった「うさぎ小屋」を活用しています。金網で囲まれていて空気が通やすく、落ち葉を積み上げて腐葉土を作るのに適していると考えたからです。

2024年10月下旬、環境委員会が中心となり活動が始まりました。全校児童が敷地内の落ち葉を拾ってうさぎ小屋へ運び、そこへ環境委員が札幌市から支給された米ぬかをふりかけ、水をまいて水分を含ませながら積み重ねていきました。旭川市のホームページにある資料を参考に作業を進めると、落ち葉はあっという間に高さ1mほどに積み上がりました。みんな落ち葉を集める楽しさに浸り、休み時間にも多くの方が自主的に活動するなど、例年以上にたくさんの落ち葉が集まりました。

集まった落ち葉は、1ヶ月後に「切り返し」という、全体の上下を逆にして水分を均一にする作業を行いました。冬を越した2025年春からも月に一度の切り返しを継続した結果、10月には体積が半分程度になり、色も黒く葉の形が細くなった「土」のような腐葉土が完成しました。これらを環境委員会がバケツで運び、教材園や花壇、そして自分たちの農園へと混ぜ込みました。

現在、空になったうさぎ小屋には、今年も新しい落ち葉を集めています。1年間で腐葉土化できることが分かり、「落ち葉拾い」から「腐葉土作り」、そして「農園への搬入」というサイクルにめどが立ちました。環境委員会では、野菜や花の栽培活動と合わせ、この腐葉土作りをSDGsの大切さや食物の素晴らしさを全校に伝える活動として、これからも続けていきたいと考えています。



小学校の部

田中学園立命館慶祥小学校

世界に貢献～田中学園LINKの4年間

私たちの学校では、社会課題の解決を目指す探究活動「LINK」に取り組んでいます。「幸せに満ちた世界へ」を掲げ、全校児童が4つのチームに分かれ、自分たちの力で世界に貢献することを目指して活動してきました。開校4年目の今年は、これまでの歩みを振り返り、その軌跡をまとめています。

【ハイペリオン】動物保護と防災をテーマに活動しています。2023年にはNPO法人「わんハート」さん、「ねこたまご」さんと協力して動物愛護の大切さを発信しました。2024年度からは防災に焦点を当て、たい肥や防災ポーチの製作、すごろく作りなどを通して、多くの方の防災意識を高める工夫を重ねています。災害の被害を少しでも減らすため、命を守る活動を続けていきます。

【トゥーレ】人と動物が共生する社会を目指しています。廃油石けん作りや盲導犬との交流で命の尊さを伝えてきました。また、日ハム様とコラボした「大ほっかいどう祭」でのメニュー販売の利益で、地下鉄さっぽろ駅に環境保護の広告を掲示しました。現在はラジオ放送を通じ、「動物との共生」への想いを発信しています。

【メトシェラ】海洋ごみを減らし海の生き物を守るため、ビーチウォークでのごみ拾いや、ごみを再利用したキーホルダーの商品開発などを行ってきました。ペットボトルと古本の交換会やエコバッグの貸し出しも実施しています。今後も展示や商品化を通じ、世界の海洋ごみ削減に貢献していきます。

【リグナムバイタ】食品ロスを減らすため、「フードドライブ」「残食コンポスト」「SNS等での情報発信」の3つを軸に活動しています。食べ物を大切にする意識を広め、「もったいない」を「ありがとう」に変える輪を広げています。

【私たちは、これからも世界に挑戦します！】私たちの活動は、動物や環境、地域の人との「つながり(LINK)」を大切にすることから始まりました。協力する喜びや挑戦する勇気を学び、学校の目標である「3C」(Challenge・Collaboration・Contribution)を胸に、これからも仲間と共に学び合い、世界に貢献し続けていきます。

